

2 廃対第 2021 号
令和 2 年 4 月 3 日

一般社団法人香川県産業廃棄物協会
会長 松本英高様

香川県環境森林部廃棄物対策課長
(公 印 省 略)

産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の処理に関する講習会の
中止・延期に伴う更新許可手続きについて（通知）

平素より、本県の産業廃棄物行政に御配慮賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの影響により、公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター主催の産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の処理に関する講習会の一部について、当面の間、中止・延期となっています。

このことにより、産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の更新許可を受けようとする際に提出する申請書に「当該事業を行うに足りる技術的能力を説明する書類」を添付することができない場合は、当面の間、次のとおり対応することとしましたのでお知らせします。

つきましては、貴会会員等関係者に周知いただくようよろしくお願いいたします。

記

処理業の更新許可の申請書に申出書（別添）を添付することにより、当面の間、申請を受け付けることとします。このことにより、更新の許可がされるわけではありませんが、従来許可の効力が継続することとなります。

講習会が再開された後に、速やかに受講し、講習会の修了証を提出してください。更新許可の審査は講習会修了証の提出後に行うこととなります。

申出書の様式は県のホームページに掲載しております。

(https://www.pref.kagawa.lg.jp/content/dir3/dir3_2/dir3_2_1/wemsg2200403140022.shtml)

<問合せ先>

香川県環境森林部廃棄物対策課
産業廃棄物対策グループ
電話：087-832-3226

申出書

公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター主催の産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の処理に関連する講習会の中止・延期により、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第9条の2第2項第4号及び第10条の4第2項第6号（これらの規定を規則第10条の12第2項及び第10条の16第2項において読み替えて準用する場合を含む）に規定する、「当該事業を行うに足りる技術的能力を説明する書類」を申請書に添付することができないため、当該講習会が再開されましたら、速やかに講習会を受講し、講習会修了証を提出します。

年 月 日

香川県知事 殿

申請者

住所

氏名

印

(法人にあつては名称及び代表者の氏名)

事務連絡
令和2年4月1日

各都道府県・各政令市廃棄物行政主管部（局）長 殿

環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課

産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の処理に関連する講習会等の中止・延期に伴う更新許可事務の留意事項について

産業廃棄物処理業又は特別管理産業廃棄物処理業の更新の許可を受けようとする者は、当該事業を行うに足りる技術的能力を説明する書類を申請書に添付しなければならないと規定されている（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則（昭和46年厚生省令第35号。以下「規則」という。）第9条の2第2項第4号及び第10条の4第2項第6号（これらの規定を規則第10条の12第2項及び第10条の16第2項において読み替えて準用する場合を含む））。都道府県又は政令市においては、当該書類をもって、申請者が申請した産業廃棄物の処理を的確に行うに足りる知識及び技能を有するかどうかを審査することとなる。

（規則第10条第2号イ、第10条の5第1項第1号ロ（1）及び第2号ロ（1）、第10条の13第1項第2号イ並びに第10条の17第1項第1号ロ（1）及び第2号ロ（1）。）

国内においては、新型コロナウイルス感染者の爆発的な増加を回避するため、大規模イベント等の開催の中止、延期又は規模縮小等の検討の要請がなされている中、産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の処理に関連する講習会（以下「講習会等」という。）の一部も当面の間中止・延期となっている。この事態に鑑み、更新許可事務における留意事項を取りまとめたので連絡する。

記

行政手続法（平成5年法律第88号）第7条は、申請が行政庁の事務所に到達したときは遅滞なく当該申請の審査を開始しなければならないとしているが、一方で、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号。以下「法」という。）第14条第3項及び第14条の4第3項では、許可の更新に関し、行政庁が処分するまでの間は、従前の許可の有効期限の満了後も当該許可がなおその効力を有するとしているところである。

貴職におかれては、講習会等の中止・延期により受講ができない事態は、申請者の責めに帰すべきことではないことも踏まえ、申請書に講習会等の修了証が添付されないことのみ

をもって申請を受け付けなかったり、不許可処分を行ったりすることなく、法第14条第3項及び第14条の4第3項の規定を活用し、当面の間、申請者の産業廃棄物処理を認め、再開された講習会等の修了証をもって、申請者の知識及び技能を審査するといった柔軟な対応をとるようお願いする。